

【学習指導案】横須賀市立望洋小学校

単元名	
〇〇が好き in YOKOSUKA	
単元目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・「横須賀市の目指す教育の姿」の一つである「横須賀が好きと誇れる人づくり」について課題をもち、横須賀市の魅力を調べたり伝えたりする。 ・横須賀市の伝統を守ったり新たな魅力をつくりたりする人々の思いに気付き、自分にできることを実践して地域を大切にしようとする。 	
単元で育てたい資質・能力	
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・横須賀市には、誇るべき伝統文化や新たな魅力が無数にあることが分かる。 ・横須賀市の伝統文化や魅力を伝える取組の必要性や、それらを支え伝えようとする方々の思いに気付く。 ・知られざる魅力を広めるための活動を目的や対象に応じて適切な方法を選択して実施することができる。
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・横須賀市の伝統文化や魅力を伝えようとする方々と直接関わり、伝承のための解決すべき課題に気付き、その解決方法を考え、解決の見通しをもつことができる。 ・見学やインタビュー、アンケート調査などの方法で、横須賀市の魅力に関する情報や自分たちの活動への感想などを集め、必要な情報に応じて、手段を選択して情報を蓄積することができる。 ・集めた情報から課題の解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係づけたりしながら、情報を整理して考えることができる。
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人が「横須賀が好き」と誇れるようになるための活動に粘り強く取り組み、仲間の意見を受け止めながら協働しようとする。 ・横須賀市への愛着が深まったことなど、自分の成長を自覚し、地域の一員として地域のためにできることを考え進んで取り組もうとする。
単元の概要（児童生徒の実態、教材の価値、中核となる学習活動等）	
<p>児童は、ここ数年のコロナ禍により、校外学習や地域の方とのふれあいの機会が制限されたまま今日に至っている。また、放課後や休日の過ごし方を尋ねた際には、限られた範囲での活動に留まっている場合や、家族と市外や県外に出かけたりする機会が多くなっていることが分かった。このことから、郷土に密着した教育活動の重要性が高まっていると考える。</p> <p>本単元の中核となる活動は、横須賀市の魅力（人・文化・施設 等）の探究である。自ら横須賀市の魅力を調べるインプットの活動と、知り得たことを周囲に発信するアウトプットの活動を数回繰り返し、質を向上させていくことを想定している。インプットは、実地調査やゲストを招いた授業を計画し、アウトプットについても、より広い範囲への発信方法を模索していく。</p>	

単元の展開													
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
小単元名・主な学習活動・予定時数等	オリエンテーション	街頭インタビュー	横須賀中央周辺実地調査	私が好きな〇〇は横須賀	個人または小人数で行う探究活動を継続	好きな文化は横須賀	好きな音楽は横須賀	好きな施設は横須賀	好きなスポーツは横須賀	好きな美術は横須賀	発信の方法を考えよう	展示会準備	展示会
	横須賀の何が好き？20h			横須賀のここが好き！30h			横須賀の魅力を伝えよう!!20h						
各教科等との関連・外部の教育資源の活用・異校種との連携や交流等	◎道徳「伝統と文化の尊重 国や郷土を愛する態度」 ◎外国語「英語でインタビュー」 ◎社会「横須賀平和中央公園」 ◎国語「地域の施設」			◎道徳「伝統と文化の尊重 国や郷土を愛する態度」			◎国工・音楽「鑑賞」 ◎社会「歴史」 ◎理科「地域の土地のつくり」			◎国語「情報の伝え方」 ◎算数「資料の整理・活用」			等

【事業実施報告書詳細】横須賀市立望洋小学校

単元の実践記録			
時期 時数	学習活動	●指導上の留意点(教材の工夫・外部人材の活用等) ○各教科等との関連	★児童生徒の学習状況【評価の観点】(方法)
【前期】 時数30h	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・街頭インタビュー ・横須賀中央周辺実地調査 ・横須賀の魅力を伝える人々 ・私が好きな●●調べ 	<ul style="list-style-type: none"> ○国語「地域の施設」 ○社会「横須賀平和中央公園」 ○外国語「英語でインタビュー」 ○道徳「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」 ○理科「地域の土地のつくり」 ○社会「歴史」 ○図工・音楽「鑑賞」 ○算数「資料の整理・活用」 ○国語「情報の伝え方」 	<p>★横須賀中央駅周辺で、観光客や地元の方にインタビューをすることで、横須賀には自然や歴史、産業など様々な魅力があることを知った。</p> <p>【知識・技能】(様子・ワークシート)</p>
【後期】 時数40h	<p>【題材】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アニメが好き inYOKOSUKA ・景色が好き inYOKOSUKA ・歴史が好き inYOKOSUKA ・生き物が好き inYOKOSUKA ・音楽が好き inYOKOSUKA ・食べ物が好き inYOKOSUKA ・美術館が好き inYOKOSUKA ・イベントが好き inYOKOSUKA ・図書館が好き inYOKOSUKA ・サーフィンが好き inYOKOSUKA ・博物館が好き inYOKOSUKA <p>・展示会「○○が好き in YOKOSUKA～○ ○が好きなあなたへ～」開催(3月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭科「共に生きる地域での生活」 ○国語「おすすめパンフレット」 	<p>★日光で、観光客や地元の方にインタビューをすることで、日光には自然や歴史、産業など様々な魅力があることを知り、横須賀と日光を比較することで改めて横須賀の魅力に気づくことができた。</p> <p>【知識・技能】(様子・ワークシート)</p> <p>★鎌倉で、観光客や地元の方にインタビューをすることで、鎌倉には自然や歴史、産業など様々な魅力があることを知り、横須賀と鎌倉を比較することで改めて横須賀の魅力に気づくことができた。</p> <p>【知識・技能】(様子・ワークシート)</p> <p>★横須賀の魅力について、これまで調べてきたことを自分なりに工夫してまとめ、より多くの人に見てもらうためにはどうしたら見やすいかを考え、展示物を作った。</p> <p>【思考・判断・表現】(作品)</p>

【実施内容について】横須賀市立望洋小学校

○実施にあたり工夫した点

年度当初の授業参観において、総合的な学習の時間の導入を行い、児童の自由な発想を生かしながら「横須賀の魅力を調査し、発信する方法」について意見を出させた。その際、児童から出された多様なアイデアを「実現可能なもの」として価値づけることで、主体的に学習へ関わろうとする意欲を高めることを意識した。

また、保護者に対しては、本年度の総合的な学習の時間のねらいや活動内容を丁寧に説明し、年間を通した学びへの理解と期待を共有した。併せて、休日等に家族で横須賀市内のイベントや景観に触れる機会をもつことで、児童の調査活動につながる経験を積むことができるよう、協力を依頼した。

さらに、教室内掲示の中心を総合的な学習の時間に関する内容とし、一年間を通して取り組む大きなプロジェクトであるという意識を児童に持たせる工夫を行った。

○実施にあたり苦労した点

上記のような工夫を行ったものの、横須賀の魅力調査に対する意欲を継続的に高めることが難しい児童も見られた。授業内で「〇〇というイベントがあるので家族と参加してみてもどうか」「写真展への応募を考えてみてはどうか」などの働きかけを行ったが、実際に行動へと移す児童は想定より少なかった。

学校外の時間を活用して主体的に学習を深める姿勢を育成することの難しさを実感するとともに、休日に学習活動へ十分な時間を割くことが難しい家庭が少なくないことにも気付かされた。家庭の生活状況や負担への理解が十分でなかった点は、今後の反省点である。一方で、学校で設定した学習時間内においては、多くの児童が意欲的に活動に取り組む姿が見られた。

○児童の反応

児童は、「実地調査」や「ゲストティーチャーを招いた授業」、さらには学習の成果を発信する「展示会」を自分たちで企画・運営することに大きな喜びを感じている様子であった。

学習の集大成となった展示会では、「この展示を見た人が『横須賀の魅力は何ですか』と聞かれたときに、自信をもって答えられるようになってほしい」という共通の願いを児童同士で共有しながら準備を進めることができた。

○担当教諭及び担当外教諭の変化

本実践は、担任をはじめとする教員にとっても、景観や景観まちづくりの意義について理解を深める貴重な学びの機会となった。特に、地域への愛着をもった子どもを育てることの重要性を改めて認識する契機となり、今後の教育活動に生かしていきたいという意識が高まった。

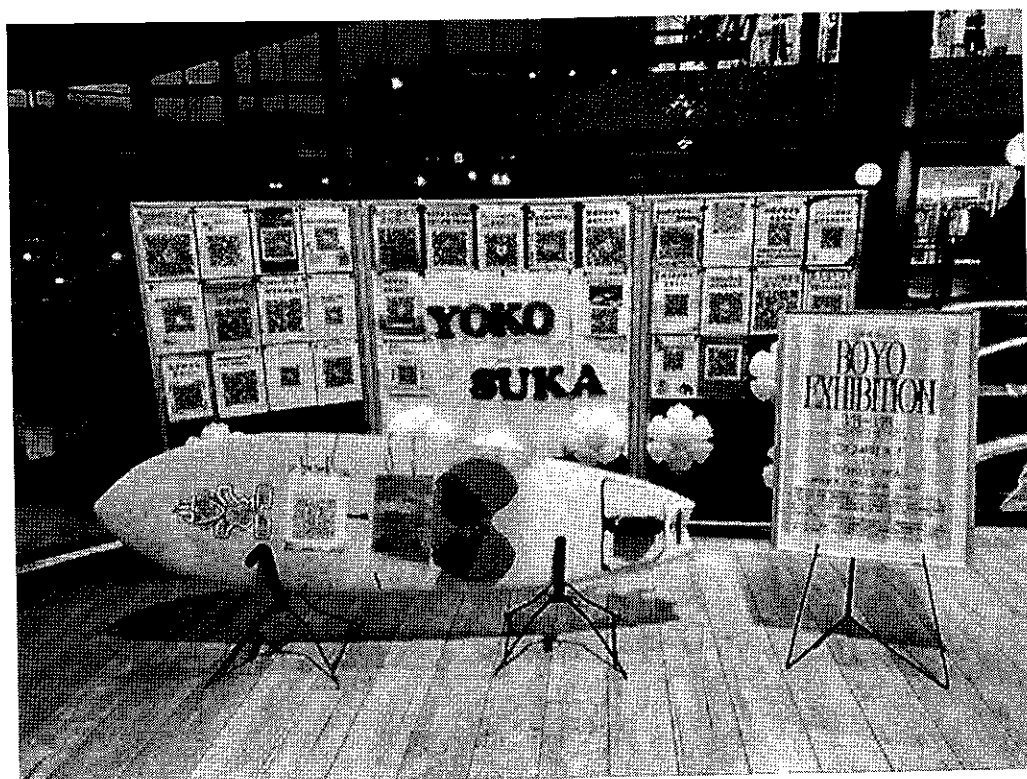
○今後の課題と取り組み

児童の自由な発想を制限してしまう要因の一つに、活動費用に関する制約がある。

本事業の助成を受けたことで、児童にとって小学校生活最後となる総合的な学習の時間を、より自由で充実したものとして展開することができた。

今後は、もう一つの課題である「授業時間の制約」について打開策を講じたい。他教科との繋がりをより模索するなどして、無理のないプログラムを計画することに加え、学校外の時間においても児童や家庭が主体的に情報収集や情報発信に取り組みたくなるような動機づけの工夫について、さらに検討していく必要があると考えている。

<資料>



3月 地域の大型デパートで開催した展示会の写真。QRコードを読み取ることで、児童が作成した資料が見られる。